

チームで働く

主任家庭裁判所調査官×家庭裁判所調査官



八坂 泰樹

大阪家庭裁判所
家庭裁判所調査官
(H25採用)

略歴
H27 さいたま家庭裁判所家庭裁判所調査官
H30 鳥取家庭裁判所家庭裁判所調査官
R2 現職

上北 睦

大阪家庭裁判所
主任家庭裁判所調査官
(H12採用)

略歴
H14 福岡家庭裁判所家庭裁判所調査官
H31 神戸家庭裁判所姫路支部
主任家庭裁判所調査官
R4 現職

三宅 万里子

大阪家庭裁判所
家庭裁判所調査官
(H23採用)

略歴
H25 大分家庭裁判所家庭裁判所調査官
H28 神戸家庭裁判所家庭裁判所調査官
H31 現職

少年部家裁調査官として

上北: 家裁調査官は、通常、主任家裁調査官と複数の家裁調査官から構成される「組」を基本的なチームとして仕事をしています。現在、私たち3人は、少年部の同じ組に所属していて、少年事件の調査を担当したり、審判に立ち会い、意見を述べたりしています。少年事件の調査では、少年や保護者の話を聴くだけでなく、少年の再非行防止には何が必要かを見極めるため、様々な調査活動を行います。また、実際に再非行防止に必要な手当てを行うことも重要な仕事です。

三宅: 具体的には、少年の性格特性などを把握するために心理テストを実施したり、少年の生活状況を把握するために少年の家庭や在籍している学校を訪問したりすることがあります。また、少年に社会の一員としての自覚を持ってもらうために、清掃活動などの社会貢献活動に参加してもらうこともあります。



八坂: この4月には改正少年法が施行され、18歳、19歳の少年は特定少年として、手続上、17歳以下の少年とは異なる扱いになりました。特定少年も含め家庭裁判所としてどのように少年事件を進めればよいのか、プロジェクトチームを作り、裁判官や書記官と議論を続けています。

組として働くこと

上北: 少年事件では、少年自身に非行を振り返らせるとともに、再非行を防ぐために何が必要なのか、何を活用できるのかといった分析も必要とされます。

三宅: 先日、私が担当した事案について、少年が暴行に至った理由を3人で検討しました。これまでも暴力を振るったことのある少年でしたが、今回の非行はこれまでの非行と同じように捉えられるかがポイントだと感じました。

八坂: 三宅さんが分析した結果をまとめてくれたので、それを基に議論しました。暴行に使う道具を用意した点や被害者との直前のやりとりで腹を立てた点など、暴行に至るまでの行動とそのときの心理状態を分析していったんですね。

三宅: 組で検討した後、少年と再度面接しました。検討を踏まえて面接した結果、少年から新たな話も引き出せて、暴行の動機が明確になったように思いました。

上北: 難しい事件でしたが、少年の課題は何か、十分に指摘することができたと思います。

八坂さんが担当した事案では、八坂さんが少年に知能検査を実施しました。組ではその結果と、少年に検査結果をどう伝え



るかを検討しましたよね。

三宅: 少年の特性についての理解は3人も共通でしたが、結果をどう伝えるかは検討を重ねたところでした。

八坂: 検査結果を伝えたのは私ですが、検査結果の解釈は、複数の調査官で行うほうがより正確にできますし、結果を伝える際も繊細な配慮が必要なので、十分に検討できたのは良かったです。

三宅: 私は今度、上北主任の担当事件で、得意とする性格検査を行う予定です。

上北: 組のメンバーが担当する事件の情報は、組で共有しています。皆の知恵を集めて事件に取り組むイメージです。得意な分野は生かす、難しい局面は皆で考えることを通して、組のパフォーマンスが向上すればと考えています。

また、他の組の調査官とも共同調査をすることがあります。

八坂: 私は、それぞれ組が違う3人で共同調査をしたことがあります。被害内容が重大だったので被害者に対する面接も実施しましたが、面接の目的や対象者に応じて、あるときは複数で面接を担当するなど、役割分担を工夫しました。

上北: その事件の検討は、複数の組の調査官が参加して行いました。主任家裁調査官以上の管理職も参加しましたが、皆フラットな立場で事件について意見を述べ合いました。

部屋・組の雰囲気

三宅: 調査官室は、明るくて話しやすいです。部屋には組が4つありますが、組にとらわれず、若手の調査官に助言したり、他の組の主任家裁調査官から助言をもらったりすることもあります。

上北: 組の雰囲気ですが、皆さん温かくて安心感があります。また、二人とも周囲の状況を的確に判断して行動してくれるのでありがたいです。私は育児との両立のためにフレックスタイム制を利用して始業が遅い日が多いですが、不在時のフォローもしてもらい、困ったことはありません。

三宅: 私もフレックスタイム制を利用して、早く帰る日が多かったり、子どもの看病などで急に休んだりすることがありますが、その都度フォローしてもらっています。上北主任は、私の業務の繁忙度や家庭の状況なども踏まえて、的確な指示や助言をくださいます。

八坂: 率直に意見を言い合え、気軽に相談できる雰囲気を上北主任が率先して作ってくれています。この仕事は、困難な状況に



置かれた方と向き合うこともあり、難しい判断をすることも多いので、全員が協力して、安心できる環境を作ることが重要だと感じています。

三宅: 昼食後にはコロナ対策をしつつ、雑談で盛り上がることも多いですね。

上北: 3人も子育て真っ最中なので、子どもの遊び場やおすめの本などの子育て情報も交換していますよね。

八坂: 仕事だけでなく、子育ての在り方についても皆さんに相談に乗ってもらっています(笑)。

受験者へのメッセージ

三宅: 調査官は、当事者や少年の人生の岐路に立ち会う仕事です。その意味でも、調査官の果たす役割は大きく、責任は重大です。また、仕事に最低限必要な知識や技法は、研修制度の中で身に付けることができますが、自分自身の経験も、事例の理解、当事者や少年との関わり方などに良い意味で影響することもあると思います。受験を考えている皆さんには、積極的に様々な人と関わり、経験を積み重ねてほしいです。

上北: 調査官のチームワークには、単なる協調性にとどまらず、自分の意見を持った上で、他者の意見を尊重できる人材が求められていると思います。自分で学び、学んだことを活用しながらも、本当にこれで良いのかと考え続けられる人と一緒に働きたらうれしいです。

八坂: 若手もベテランも、正解がない中で日々学びながら、より良い結論を模索しています。この仕事は難しいけれども、学べば学ぶほど面白い、奥深い仕事だと思います。これを読んだ皆さんも、いつかどこかで、少年や当事者のために一緒に協力し合えたらいいと思います。

